

六島

1

ワシントンヤシを中央道路に並び、ユニークな庁舎に負けない斬新さを出したものです。周囲は紀州の青石(緑泥頁岩)で種人で黄金のセツカンズギにて、美しいコントラストを考えました。

中庭は瀬戸内海を想はせる景観として、白砂に渡橋を建物際から突堤の如く石畳みとせし修飾。当時としてはエレベーターの有る庁舎で各階から眺めても立体感のある伏観に対しても陰影の出るよう考慮した筈です。

六島市には此の様な深い因縁をもつ私は、街の隅々まで被爆時に工兵隊で調査した関係上、復興とか計画には誰よりも強い情熱をもつものである。山々の姿も、当時の事が忘れられません。大田川も禪一丁で渡ったものです。

造園設計と申しますと、只今では(15年前位)社会的に認められましたが、高度成長期も終わった今日、生活環境、却向景観の改善、根本的見直し、の時期に入ったと存じます。

昭和37年、ローマの日本文化館創設に際して、建築家の吉田五十八先生からの要望で、3ヶ月渡欧して1ヶ月余り欧州全体を駆け巡り、己の作庭のレベルの再評価をつぶさに見て、文化の偉大さに恐懼すると共に己の考之の基理を推し量った。

件名